

平成 23 年 12 月 15 日

各 位

上場会社名 株式会社ミロク  
代表者名 代表取締役社長 弥勒美彦  
(コード番号 7983 大証第2部)  
本社所在地 高知県南国市篠原 537-1  
問合せ先  
責任者役職名 常務取締役  
氏 名 近藤久視  
TEL (088) 863-3310

## 「2012 中期経営計画」策定に関するお知らせ

当社は、2012 年 10 月期を初年度とする 3 カ年の中期経営計画「2012 中期経営計画」を策定いたしましたので、お知らせいたします。

### 記

#### 1. 「2012 中期経営計画」策定の背景

当社は、2008 年の世界同時不況発生後の新たな経営環境に適合すべく、昨年、「2011 中期経営計画」を策定致しました。その後の事業環境は、円高の急激な進行等の逆風に見舞われましたが、収益回復に向けた諸課題の着実なる対応等により、平成 23 年 10 月期連結業績では、営業損益の悪化に歯止めをかけ、経常利益、当期純利益とともに、平成 22 年 12 月 15 日発表の当初計画値を上回ることができました。

しかしながら、本年 3 月に発生した東日本大震災、超円高の継続、欧州金融不安の深刻化等、当初の想定する経営環境と異なる状況となったため、目標計画数値の見直しを行いました。

#### 2. 基本方針

当社を取り巻く経済状況は、円高の長期化、欧州金融不安の深刻化、これに伴う世界経済への波及懸念等、先行き予断を許さない厳しい状況にあります。このため、今後三年間で想定すべき経営環境につきましても、厳しい見方をせざるを得ず、猟銃事業では、消費者の低価格指向の常態化と販売競争の激化、工作機械事業では、欧米市場や国内市場の伸び悩みと中国及び新興国需要の台頭、自動車関連事業では、高級車市場の需要構造変化等を前提とすべきと考えます。

これらの環境を踏まえたうえで「品質第一をさらに推し進め、これまでに培ってきた他社に無い固有技術を応用・展開して収益を確実に上げると同時に、新たな技術を開発して新規事業に結び付ける」ことを中長期的な基本方針と位置付け、収益の回復、安定化に努めてまいります。

#### 3. 数値計画（連結）

単位：百万円

	2011/10 期 実績	2012/10 期 予想	2013/10 期 予想	2014/10 期 予想	(ご参考) 2010/10 期
売上高	9,016	11,000	10,800	11,200	10,544
営業利益	△53	150	180	230	△179
経常利益	198	240	280	330	307
当期純利益	81	120	140	160	233

#### 4. 事業別重点施策

##### ① 猟銃事業

主力の米国及び欧州市場において、消費者の低価格指向が継続し、販売競争は熾烈を極め、超円高の解消は期待できないという厳しい前提のもと、事業計画を策定し、実行してまいります。当事業の課題は二つで、価格競争力を高め、利益を確保するための継続的な損益分岐点の引き下げと売上増加による利益の積み上げです。

具体的には、徹底したムダ排除による「生産効率の向上」、購買管理の強化や海外調達等による「材料費の削減」、リードタイムの短縮等による「フレキシブルな生産体制」を強化することで、「価格競争力の確保」を実現してまいります。また、「新製品・新技術の開発」による購買意欲の喚起を図り、売上の増加、利益の積み上げを実現してまいります。

ブローニング・ミロク製品の最大のセールスポイントは品質の高さです。品質第一を常に意識しつつ、価格面でもより多くの消費者を魅了する製品を市場に提供してまいります。

##### ② 工作機械事業

日米欧の設備投資意欲が依然として減退している状況ではありますが、安定した利益を上げることのできる事業基盤を確立してまいります。

主たる顧客である自動車関連産業では、生産拠点として、また、販売先として、中国や東南アジア等の新興国が台頭しております。ツール部門、加工部門においても、これら新興国市場の重要性は増してきており、市場が求める「品質と価格のバランス」に柔軟に対応することで、この成長市場におけるシェア獲得を進めてまいります。

具体的には、設計・製造部門の合理化や材料費の削減に努め、廉価な汎用機や専用機だけでなく、付加価値の高い製品においても、コスト競争力を強化してまいります。また、ツール部門、加工部門についても更なる販売網を模索し、提案営業力強化等により、収益性も向上させてまいります。

##### ③ 自動車関連事業

自動車関連事業は、持分法適用会社である（株）ミロクテクノウッドを中核としており、同事業の発展・成長は、主に持分法による投資利益の増加を通じて、当社連結業績に反映されます。

自動車産業は、東日本大震災によるサプライチェーンの混乱から立ち直りを見せておりますが、高級車市場の需要構造に変化の兆しが見られ、その中で常に勝ち抜く企業体質の構築が重要と考えております。このため、原価低減活動を更に推し進めて継続的な受注を確保するとともに、純木製ステアリングハンドルに代わる、先を見据えた新規格・新素材の研究開発を進め、売上の拡大に努めてまいります。

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上